

グループ	4	青年期				
テーマ	(1)	<若者の自立支援> ひきこもり・ニート・不登校や様々な課題を抱える若者が、就労・就学等の社会参加ができるよう、自立に向けた支援を行います。				
1	事業No	1401	行動目標	質的充実	担当課	こども政策課
	事業名	子ども・若者を対象とした相談窓口				
	内容	課題を持つ青少年に対して、諸問題を解決するため、必要に応じて適切な関係機関と連携できるよう相談窓口を充実します。				
	H29(2017)年度の取組と実績	茨木市子ども・若者支援地域協議会の各構成機関が窓口となり、相談支援を実施した。				
	H29(2017)年度の評価と課題	行政	各機関が必要に応じて関係機関と連携しながら対応した。			
		市民				
	今後の改善項目	各機関で滞留・長期化するケースが出ないよう、知識・技能の向上を図りつつ、継続して実施する。				
委員からの意見						

1	事業No	1401	行動目標	継続	担当課	社会教育振興課 (旧 青少年課)
	事業名	子ども・若者を対象とした相談窓口				
	内容	課題を持つ青少年に対して、諸問題を解決するため、必要に応じて適切な関係機関と連携できるよう相談窓口を充実します。				
	H29(2017)年度の取組と実績	電話及び面接による相談を実施した。 ・相談件数 2件				
	H29(2017)年度の評価と課題	行政	必要に応じて、当該児童生徒の所属校等への連絡や関係機関の紹介等を行い、相談者の不安を取り除く一助となった。			
		市民				
	今後の改善項目	相談窓口についてリーフレットや青少年センターだより等で周知する。				
委員からの意見						

2	事業No	1402	行動目標	継続	担当課	こども政策課
	事業名	子ども・若者自立支援センターにおける相談・支援				
	内容	ひきこもり等の状態にある子ども・若者が社会参加できるよう、「子ども・若者自立支援センター」において、ひきこもり等の当事者や家族の相談・支援を行います。また、低所得世帯に対し、相談料等の助成を行います。				
	H29(2017)年度の取組と実績	<p>子ども・若者自立支援センター「くろす」において、ニート・不登校をはじめとする生きづらさを抱えた子ども・若者とその保護者の相談・支援を行った。センター利用については、申請により利用券を交付することで無料とする対象世帯を、従来の生活保護世帯・市民税非課税世帯等に、所得制限対象世帯を加えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面談 本人のべ425件 保護者のべ583件 ・居場所のべ 63件 ・訪問支援のべ 5件 ・訪問のべ 217件 ・他機関・企業連携実績 699件 ・利用券交付 46人 				
	H29(2017)年度の評価と課題	行政	面談、訪問支援、他機関・企業連携件数が増加している。CSWとの連携等によって、停滞ケースがくろすでの支援につながり動き出すということが着実に増えてきている。			
		市民				
今後の改善項目	引き続き、より多くの市民が利用できるよう努めていく。					
委員からの意見						

3	事業No	1403	行動目標	質的充実	担当課	こども政策課
	事業名	子ども・若者の自立に関するネットワークの推進				
	内容	子ども・若者支援地域協議会に参画する様々な支援機関・団体の専門性を活かし、社会生活を円滑に営むうえで困難を有する子ども・若者の状況に応じた支援を行います。				
	H29(2017)年度の取組と実績	<p>子ども・若者支援地域協議会を開催し、構成機関との連携・整備を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・代表者会議 2回 ・実務者会議 5回 ・ケース会議 159回 ・講習会 2回 ・スーパーバイズ 3回 ・事例検討・研修会議 5回 <p>悩み・困りから協議会のどの機関に相談すべきかが分かるよう「相談機関への道しるべ」リーフレットを刷新し、HPに掲載、関係課・機関において配架等の周知とともに、市内公立中学校の3年生を対象に配付した。</p>				
	H29(2017)年度の評価と課題	行政	連携支援や支援の質の向上の共通認識を一層高めるなかで、「教育と福祉」「子・若協議会と要対協」「出口支援」が機関連携の中の具体的な課題ケースとして挙がってきた。			
		市民				
今後の改善項目	協議会の成果の見える化に加え、連携を円滑にするために、「各機関での支援内容詳細を共有する」リーフレット、「連携時の情報共有を容易にする」協議会用情報共有フォーマットを作成し、引き続き早期支援・早期困難解消に向けて協議会構成機関で一丸となり取り組む。					
委員からの意見						

4	事業No	1404	行動目標	量的・質的充実	担当課	商工労政課
	事業名	就職サポート				
	内容	就職相談、講習会・セミナーの実施や職業訓練校等への誘導、合同就職面接会の開催など就職に向けた支援を行います。				
	H29(2017)年度の取組と実績	<p>ハローワークや茨木商工会議所と連携し、就職サポート事業として、仕事なんでも相談、合同就職面接会等の就労支援を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事なんでも相談 相談件数207件 ・就活支援事業 参加事業所9事業所 参加者40人 ・就労支援フェア(合同就職面接会、就労・起業相談等) 開催日①平成29(2017)年5月26日(子育て)②7月14日③10月20日④11月22日(障害)⑤平成30(2018)年1月26日 来場者①34人②87人③75人④81人⑤80人 ・北摂地域における就職合同説明会 開催日平成29(2017)年10月5日 来場者201人 ・職業能力開発講座 ①技能講習②医療事務基礎講座③障害者対象ビジネスマナー講座 実施日①平成29(2017)年4月～平成30(2018)年3月②平成29(2017)年9月～11月(18日間) ③平成29(2017)年10月～11月(3日間) 参加者①1人 ②19人③3人 ・就職支援セミナー 実施日①平成29(2017)年5月26日②6月23日③10月11日 参加者①14人 ②13人③10人 ・再就職支援助成金 交付件数 15件 ・就労体験事業 参加者2人 				
	H29(2017)年度の評価と課題	行政	参加対象者を拡大するため、合同就職面接会の実施時期を新規学卒者の就職活動が解禁される時期に変更したことにより、来場者数が増加した。面接会による就職者数は、平成28(2016)年度の31人から41人に増加した。			
		市民	合同就職面接会について「満足」と答えた方 59%			
今後の改善項目	就職相談、講習会・セミナー及び就労体験の実施、合同就職面接会の開催など就職に向けた支援を引き続き実施する。					
委員からの意見						

5	事業No	1405	行動目標	新規	担当課	こども政策課
	事業名	大学等への就学意欲のある若者への支援				
	内容	進学や修学に支障をきたすことなく、一人ひとりのゆめが実現するよう支援を行います。				
	H29(2017)年度の取組と実績	<p>大学奨学金利子補給事業を実施した。</p> <p>平成28(2016)年10月1日から平成29(2017)9月30日までに返済した奨学金の利子額(上限20,000円)を給付した。給付対象者には10年間給付する。(ただし毎年申請が必要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続給付者数 307人 ・新規給付者数 157人 				
	H29(2017)年度の評価と課題	行政	当事者の声を参考に、事業周知カードを作成し、市内連携大学の奨学金窓口や成人式で配布した。申請者の多くが市広報誌で本事業を知って応募しているが、周知スペースが毎回大きくとれるとは限らないため、今後、市広報誌以外の周知方法を検討する必要がある。			
	市民	定住意向率は新規申請者91.7%、継続申請者94.1%。 「周知が分かりにくい」「返済額に応じた給付額にしてほしい」「手続きを簡略化してほしい」との意見があった。				
今後の改善項目	事業の効果的な周知方法や手続方法について、アンケートの意見を参考にしながら引き続き検討していく。					
委員からの意見						

グループ	4	青年期				
テーマ	(2)	<青少年の健全育成> 学校・地域・家庭が連携し、次代を担う青少年が自他ともにかげがえのない存在であることを認識するとともに、社会の一員であることを自覚し、自ら進んで社会参加するための環境づくりを推進します。				
1	事業No	1406 ★	行動目標	継続	担当課	文化振興課
	事業名	姉妹・友好都市との青少年交流				
	内容	キャンプやスポーツ等により、姉妹・友好都市と様々な交流機会を設け、子ども同士の交流を通じて、連帯感や協調の精神・国際感覚の養成を図ります。				
	H29(2017)年度の取組と実績	茨木市国際親善都市協会において、国内外の姉妹都市等に住む子どもたちと、茨木市内小中学校・幼稚園に通う子どもたちが、絵画・書などの作品を交換した。				
	H29(2017)年度の評価と課題	行政	茨木市からは延べ72点の作品をミネアポリス市・小豆島町などに送り、各都市で展示してもらった。国内姉妹都市の小豆島町から46点作品が届き、教育委員会で実施している総合展の姉妹都市コーナーで展示した。多くの茨木市民が来場し、小豆島町の子も達が描いた島の風景などの作品を観覧した。			
		市民				
	今後の改善項目	多くの子ども達に作品を提供してもらっており、子ども達がより姉妹都市等との交流を感じることができる仕組みを検討が必要。				
委員からの意見						

1	事業No	1406 ★	行動目標	継続	担当課	社会教育振興課 (旧 青少年課)
	事業名	姉妹・有効都市との青少年交流				
	内容	キャンプやスポーツ等により、姉妹・友好都市と様々な交流機会を設け、子ども同士の交流を通じて、連帯感や協調の精神・国際感覚の養成を図ります。				
	H29(2017)年度の取組と実績	小豆島町への訪問と小豆島町からの受入を行い、交流の機会を設けた。 ・しょうどしまオーリーブキャンプ 40人(訪問) ・いばらきフレンドリーキャンプ 110人(受入)				
	H29(2017)年度の評価と課題	行政	毎年ほぼ一定の参加があり、茨木市・小豆島町それぞれの参加者が有意義な交流を行うことができている。			
		市民	事業後に参加者同士が文通を行うなど交流の輪が広がっている。 また、訪問・受入の両事業に参加する子どももおり、再会し交流を深めることができた。			
	今後の改善項目	茨木市、小豆島町双方にとって無理のない形で継続する。				
委員からの意見						

2	事業No	1407 ★	行動目標	継続	担当課	文化振興課
	事業名	青少年の国際感覚と英語等の語学力の育成				
	内容	茨木市国際親善都市協会青少年活動室などにおいて、歌やゲームを通して、楽しみながら英語等を学び、子どもの国際感覚と語学力を養成します。				
	H29(2017)年度の取組と実績	「英語で遊ぼう」・「中国語で遊ぼう」は、年度内で7回(英語)・9回(中国語)実施し、延べ123人の子どもたちが参加し、毎回歌やゲームなど楽しみながら英語・中国語に触れる機会を提供できた。また、市民と在住外国人や留学生との交流イベントである「国際交流の集い」を茨木市国際親善都市協会と共催で実施した。多くの子どもたちが参加し、異文化に触れる機会が提供できた。				
	H29(2017)年度の評価と課題	行政	「英語で遊ぼう」・「中国語で遊ぼう」は、リピーターが多く、参加した子どもたちにとって、楽しみながら多言語・多文化に触れる機会となっている。「国際交流の集い」の参加数も前年から増加し、多くの子ども達が親子で参加できるイベントとなった。協会と連携し、周知方法を工夫し、さらに多くの子どもたちに参加してもらい、多様な文化に触れる機会を提供できるように、検討が必要。			
		市民	「国際交流の集い」のアンケート結果では、約8割の皆さんが「とてもよかった・まあまあよかった」との回答だった。「子どもと一緒に楽しめた」などの意見もあった。			
	今後の改善項目	各事業でどんなふうにも多言語・多文化を楽しむことができるのか、子どもたちが参加したいと思えるよう、しっかり内容を伝える周知について、検討が必要。				
委員からの意見						

3	事業No	1408 ★	行動目標	継続	担当課	社会教育振興課 (旧 青少年課)
	事業名	青少年健全育成団体の活動支援				
	内容	地域における青少年健全育成活動を推進(地域での人間関係の構築、青少年の地域活動への参加を促進。また、問題行動の抑制、規範意識の醸成)するため、関係団体事業(小学校区子ども会育成連絡協議会、小学校区青少年健全育成運動協議会、小学校区青少年会、中学校区青少年健全育成運動協議会、中学校区青少年指導員会、茨木市子ども会育成連絡協議会、茨木市青少年指導員連絡協議会)の活動を支援します。				
	H29(2017)年度の取組と実績	スポーツ大会、挨拶運動、校区巡回街頭指導、啓発・情報提供など地域で青少年の健全育成に取り組む団体に補助金を助成した。 ・助成団体数 84団体 助成額 6,252,688円				
	H29(2017)年度の評価と課題	行政	地域の実情に応じた取組が実施された。今後も地域における青少年の健全育成のため、補助金を効果的に活用してもらう必要がある。			
		市民				
	今後の改善項目	補助金の交付対象事業が、青少年健全育成重点目標「大人が気づいて、声をかけあう関係づくり」を意識した取組となるよう、各団体への周知を図る。				
委員からの意見						

4	事業No	1409 ★	行動目標	継続	担当課	社会教育振興課 (旧 青少年課)
	事業名	青少年を取り巻く環境整備				
	内容	青少年指導員による有害図書の立ち入り調査、関係機関と連携して行う巡回街頭指導のほか、社会環境浄化活動等により、青少年の健全育成環境の整備を図ります。				
	H29(2017)年度の取組と実績	各中学校区の青少年指導員が、深夜営業店、カラオケボックス等に青少年健全育成協力の依頼及び社会環境浄化活動関係チラシの配布を行った。また、市内の夏祭りなど夜間に青少年が外出する機会に合わせて巡回街頭指導を実施した。 ・巡回街頭指導 7回、参加者 197人				
	H29(2017)年度の評価と課題	行政	各取組を実施することで、青少年健全育成環境整備の一助となっている。			
		市民				
今後の改善項目	青少年指導員連絡協議会等と連携を図り、継続して実施する。					
委員からの意見						

5	事業No	1410	行動目標	継続	担当課	人権・男女共生課
	事業名	デートDV防止啓発				
	内容	恋人間等の暴力(デートDV)の未然防止のため、中学生・高校生等を対象に防止啓発冊子を作成・配布します。また、効果的な啓発となるよう関係機関と連携を図ります。				
	H29(2017)年度の取組と実績	デートDV予防啓発冊子を市内公立中学2年生に配布した。 ・中学生 計2,626人(希望する高校や大学等にも配布) 市民グループによる啓発冊子を活用したワークショップを市内中学校等で開催した。 ・計2校 95人				
	H29(2017)年度の評価と課題	行政	中学生等への直接的・効果的な啓発を図ったが、昨年度より実施校が減少していることから、活動についての発信を積極的に行うとともに、学校等のニーズを反映できる啓発方法・内容をさらに検討していく必要がある。			
		市民	受講者からの意見としては、「自分の行動を見直そうと思う」「自分も加害をしているかもしれないと思った」などがあり、おおむね理解が深まった様子であった。			
今後の改善項目	市民グループの活動支援を引き続き行うとともに、JKビジネスに関する社会問題等、新たな事案もあることから、時代のニーズにあった啓発方法・教材の開発を検討する必要がある。					
委員からの意見						

グループ	4	青年期					
テーマ	(3)	<体験活動の充実> 人間性豊かな人格の形成をめざし、子どもの生きる力を育む環境づくりを推進するため、大人と子どもが協働し、地域にある様々な資源を生かしたボランティア活動や体験活動、交流活動を充実します。					
1	事業No	1411 ★	行動目標	量的・質的充実	担当課	社会教育振興課 (旧 青少年課)	
	事業名	青少年の野外活動					
	内容	野外キャンプなど、子ども同士の連帯感の育成と自然の大切さを感じる心を育むことのできる場を提供するとともに、青少年活動の指導者の育成を行い、子どもの健全育成を支援します。また、学校教育と連携し、より多くの青少年に自然体験ができる機会を増やします。					
	H29(2017)年度の取組と実績	青少年を対象とした事業の実施及びこども会キャンプや小学校自然宿泊体験学習の受入を行うとともに、大学生リーダーであるキャンプカウンセラーの育成を行った。 ・主催事業 11事業 ・こども会キャンプの実施 127こども会 ・小学校自然宿泊体験学習の受入 32校 ・年間利用者数 281団体、11,216人 ・キャンプカウンセラー数 79人(大学1～4年生)					
	H29(2017)年度の評価と課題	行政	主催事業やこども会キャンプでは幅広い年齢層の青少年に、小学校自然宿泊体験学習では全小学校5年生に、それぞれ体験活動の機会が設けられており、多くの青少年に豊かな体験と学びの場を提供することができた。 キャンプカウンセラー育成においては、年間を通じた研修や利用者対応をととして、青少年への理解を深めリーダーとしての資質を高めることができた。				
		市民	主催事業では、以前のキャンプの思い出等を動機として参加している子どもが多いことに加え、こども会キャンプ・小学校自然宿泊体験学習では付添いの保護者や学校教員からも子どもの成長の機会につながることを実感する声も多い。 キャンプカウンセラーは、多様な利用者との関わり等が自身の成長につながっていることを実感し、活動への意欲を高めており、利用者からの評価も高い。				
	今後の改善項目	事業内容の充実を図りながら継続して実施する。					
委員からの意見							

1	事業No	1412 ★	行動目標	継続	担当課	社会教育振興課 (旧 青少年課)	
	事業名	青少年センター行事					
	内容	子ども達に豊かな体験活動の機会を提供するため、上中条青少年センター主催事業として、上中条青少年センターを中心に市の各施設を活用し、土曜日講座・イベントを実施します。					
	H29(2017)年度の取組と実績	主に青少年を対象に「子どもセミナー」によるものづくり体験や「ふれあいコンサート」での吹奏楽の鑑賞、青少年センターフェスティバルでは高校生バンドの発表の機会を設けた。 ・子どもセミナー 37回 592人 ・ふれあいコンサート 2回 419人ほか合計1,369人					
	H29(2017)年度の評価と課題	行政	各事業を実施することで、青少年の豊かな体験活動の機会を提供できたが、取り上げるテーマや台風による中止などで回数や参加人数が前年度に比べ減少した。				
		市民	子どもセミナースペシャルでは、親子で工作に取り組む企画を運営し、楽しく参加・作成してもらうことができた。また、バンドフェスティバルに参加した高校生からは、他校の生徒や先生方と交流・アドバイスをもらえ良かったとの感想をもらった。				
	今後の改善項目	青少年の積極的な参加を促すため、事業を再構築し、青少年が主体となる「青少年フェスタ」等を実施する。					
委員からの意見							

2	事業No	1413 ★	行動目標	継続	担当課	スポーツ推進課
	事業名	各種スポーツ・レクリエーション活動				
	内容	仲間や参加者とのコミュニケーションを図り、スポーツへの愛好心を育てるため、スポーツ・レクリエーションに親しむ機会となる行事等を開催します。				
	H29(2017)年度の 取組と実績	31公民館区において地区スポーツ・レクリエーション大会の開催を支援し、地域住民の健康増進と親睦を図った。 参加者数 37,670人(大人を含む)				
	H29(2017)年度の 評価と課題	行政	降雨等の影響で、中止する地区が前年度より1地区増えたことや、実施日を変更したこと等の要因により、参加者数が2,200人減少した。			
		市民				
	今後の 改善項目	引き続き、多くの地域住民の方が参加しやすい内容を大会プログラム等に盛り込むよう、各公民館区事業実施委員会に促していく。				
委員からの意見						